**平成２９年度**

**(社)日本ダイバーシティアート学会　事業計画書**

(平成2９年4月1日~平成３０年3月31日)

1. 事業方針

マリスアートプロジェクトとダイバーシティ(みんなで一緒に)のデザイン。この２つを軸に研究開発をする。

当法人の第一の目的は、視覚障がい者を中心に他の障がい者及び身体的に不自由な部分を有する高齢者に、文化、生活環境の向上のためのアートとデザインの研究及び開発。第二の目的は、第一の目的を社会に活かす為の啓蒙と普及活動事業。

混ざり合うダイバーシティ社会の構築を世界最高レベルで一般の人々まで行き渡らせることを目指す。

私達の団体は、今までのマリスアートプロジェクトがおこなってきたアート(art and design)の研究・実験・実践をよりグローバル化し、日本のみならず、世界に貢献していくために設立。

「マリスとは」

色彩学上、色の表現は明度・色相・彩度の３点から成り立つが、マリスはその２点(明度と色相)を抽出し、明度を砂の粒度の違い、色相をハーブエッセンシャルオイルの香りの違いで置き換えて表現した。

「マリスアートプロジェクトとは」

マリスにより、色が触感と香りで表現可能となり、全盲の人でもわかる絵画、つまりダイバーシティのアートにおける具現化に成功。現在は、より一層研究を重ね、精度を高めていく研究を進めていく一方、ダイバーシティ社会への啓蒙をアートから推進させる研究を行っている。

目的

* 1. アートとデザインをとおし、視覚障がい者及び視覚障がいに関する高齢者の文化、生活環境の向上に対する研究及び開発
	2. 前号を社会に活かす為の啓蒙と普及活動事業
	3. 特許権の取得及びその管理
	4. 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業
1. 会議
	* + 社員総会

2017年12年22日(金)

1. 事業計画
2. マリス絵画研究

2009年に、全盲の人もわかる絵画・マリスが誕生。

視覚障がい者のためのアートの作品紹介は、今までいろいろな工夫のもと制作されてきた。しかし、名画の輪郭に沿って点字のように凹凸があるだけというような、晴眼者が見ると芸術作品とは程遠い表現だった。また、レリーフ(彫刻の分野)を絵画と混同するレベルの美術専門知識のない人間が多く関わることで、彫刻と絵画の違いさえも視覚障がい者には正確に伝わっていない現状である。

当学会は、世界中の盲学校の子どもたちや目の見えない人びとに、「晴眼者と一緒に芸術としての絵を鑑賞する機会」、「芸術の代表とも言える絵画を観る体験の場の創造」が必要と考える。耳の聞こえない子が骨振動で音楽を楽しめるように、盲学校の子どもたち、目の見えない人びとが、指で絵を楽しむことができる場を作り出す。そのためのマリス技法のさらなる研究を推進する。

1. 視覚障がい者のみの老人ホームを建設及び運営

単なる福祉のみにとどまらず、ダイバーシティデザインの研究と実験の場として、各国１カ所、視覚障がい者のみの老人ホームを建設及び運営し、リサーチを目的とする施設を創設する。

1. ダイバーシティデザイン開発・研究

JIS基準から外れた視覚障がい者には不便な点字ブロックなど横行している。当法人は、障がい者団体と連携を取り、より障がい者の立場に立ったデザインの開発を行う。

1. マリス絵画展、マリスアートプロジェクト事業

当法人は、マリス絵画や、マリスアートプロジェクトで行う全ての展覧会事業を行う。

1. 会場：塩竈市杉村惇美術館、ふれあいエスプ塩釜

展示会名：LOVE&PEACE 塩釜からリオへ世界へ

会期：2017年7月1日(土)〜7月9日(日)

助成:野村財団

主催:一般社団法人日本ダイバーシティアート学会

後援:駐日ブラジル大使館、宮城県、塩市、公益社団法人 東京都盲人福祉協会、認定 NPO 法人 AAR Japan[難民を助ける会]、公益財団法人宮城県国際化協会

協力:日本視覚障碍者芸術文化協会、宮城華僑華人女性聯誼會、NPO 法人 MISO、宮城・ブラジル友好協会、東京上海経営者協力会、社会福祉法人 岐阜アソシア

1. 会場：仙台国際センター

展示会名：LOVE&PEACE - Africa Seminar & Calture-

会期：2017年9月17日(日)

主催：宮城アフリカ協会

1. 会場：①プラハ・コングレスセンター・サウスホール②（予定）Škola Jaroslava Ježka（盲学校）

事業名：マリスアートプロジェクト in[第42 回ジャパンウィーク2017 年チェコ･プラハ]

日時：2017年11月18日~23日

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

公益社団法人企業メセナ協議会 認定